じっくり心をこめて

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん



生しいたけのベーコン巻き

しいたけとベーコンは、味の取り合わせが良 く、栄養的にも補い合います。簡単に出来るの で、朝食やお弁当にもいいですよ。

材料(4人分)

・生しいたけ 200g ・赤ワイン(酒) 適量 ・ベーコン 12枚 ・サラダ油 適量 ・アスパラガス 2 束 : ・塩 少々

・コショウ 少々

作り方

- 1 生しいたけの石づきを取ってコショウをふり、下味を付
- 2 ベーコンは生しいたけの大きさに合わせて切る。1の生 しいたけの傘からヒダにかけて巻き、楊枝でとめる。
- 3 熱したフライパンにサラダ油を敷き、2の表と裏を軽く 炒め、赤ワインをふりかける。水気が無くなったら火を 止める。
- 4 アスパラガスは5センチ大に切り、沸騰したお湯に塩を 少々入れて太い部分から順に茹でる。火が通ったら冷水 につけて冷やし、ザルにとって水気を切る。
- 5 楊枝を取り除いた3に4を添えて盛り付ける。

せきかわ文芸

浸りおり

夕つ方鋭き声の鴉二羽飛び去りし後の一枚の

蝉時雨繁れる枝に白き手の素早く延びて猫蝉

ずやかな顔 川辺りに子等を遊ばせ涼をとり若き夫婦のす

日帰りの旅にてあれど天童の紅花入りの湯に

須貝

出

小池

た ば み 短 歌 会 作

品

か

赤あかの柿を見上げて涙ぐむ母と食べた つぢっと見つむる 年一度大したもん蛇行列を眼をかがしつ

高橋 (愛広苑) イツ







治三十六年十二月七日関川村萬粁」を著した近三男太は明中隊の行動実録「駄馬補給二 宮前に近林蔵の長男として生 日中戦争における兵站輜重

執筆者:佐藤貞治 (「せきかわ歴史とみちの館」館長)

沂

男 太

られた。 躍した。 武道大会では副将をつとめ活 育召集により昭和二年三月三 任ぜられた。 仙台に入隊。陸軍輜重軍曹に月三十一日一年志願兵として する一年志願制度があっ に対して一年間陸軍現役に服 度として中学校卒業以上の者 十一日陸軍輜重兵小尉に任ぜ 当時陸軍予備幹部の補充制 近三男太は大正十三年十一 その後短期の教陸軍輜重軍曹に た。

在郷軍人女川村分会長をつと 二年日中戦争に出征するまでそして昭和六年より昭和十

の輸送を本務とする駄馬編成隊に編入。この部隊は軍需品召集。第二師団第三兵輜重中始まり近三男太は七月十五日始まり近三男太は七月十五日明和十二年七月七日廬溝橋 の部隊である。

な中国戦線を各地に転戦し活重中隊の指揮をとった。広大東中隊の指揮をとった。広大中尉に昇進していた近三男太中尉に昇進し死亡。その後は既にを発病し死亡。その後は既に 和十六年召集解除を命ぜられ動した。予南作戦を最後に昭 三年九月大童中隊長がコレラ 長の指揮下にあったが昭和十最初戦地では大童中尉中隊

> 料である。
>
> 料である。
>
> 本位に書かれたものでなく、 を発刊した。この著書は興味馬補給二萬粁」(九五八頁)日誌、戦闘詳報をもとに「駄 [中戦争で自ら記録した陣中 昭和五十年十一月三十日 戦闘詳報をもとに「駄

地に遠征した。県下中等学校部に所属し各大会に参加、各三月二十日卒業。在学中柔道新潟商業学校を大正十二年

先であった。専売局、斎藤 振興に尽くした功績は誠に大 潟市では新潟大学、 山形県小国町方面からも大量 を入れた。関川村だけでなくり組み、特に薪炭の販売に力 再召集されフィリピンで終戦尚、近三男太は昭和十九年 に買付け各地に販売した。新 となり同二十一年に帰還した。 戦後は近林商店の経営に取 斎藤家などが大得意 地域の薪炭業の 新潟交通、

勲章を受章した。旭日章に叙せられ 将棋を趣味として晩年は友って村勢の発展に尽くした。 月二十九日正七位勲五等双光を免許された。昭和十五年四三年、日本将棋連盟から初段 楽しみとしていた。昭和四十 人と将棋を指すのを何よりの 日章に叙せられ功五級金鵄

甚兵衛... 甚九郎 林蔵 三男太

会議員に当選、二期八年に亘昭和三十八年に関川村村議きい。

专

十二歳で没した。 昭和五十一年十月七日、

近家の系図

関 Ш 俳 句 の 会 作 品

お盆過ぎはや秋の色身に寄りぬ 渡辺しづい

燕帰る別れの音符電線に

朝露にぬれし線香花火あと

佐藤

ノブ

でで虫の物に当たりて角を振り 米野 セツ

セツ

渋谷

淋しさや二年続きの雨祭り

原爆忌推敲を止め黙祷す

青木 慶

五十嵐貞子

かわ文

老眼で辞書引きしばし月憩う

せきかわ川 .柳会作品「短い」「伏せる」「雑詠」

₩

老残の身に短日のカレンダー

渡辺しづい

歩をゆるめ短か人生噛み締める

知くて余韻が残る子の電話

何事も伏せているのが良いのかな

過疎の村若人交じる墓参り 追伸に短い母の本音見え

本間

高橋 イツ セツ

平田 千恵 イミ